

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2017 年 10 月 24 日 (火) 1 限 実施
後期①考查
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ～ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い（問1～問8）に答えよ。（配点 24）

古代の (a)イスラエルと呼ばれる民族は、紀元前 1500 年頃までに [1] に移住したが、周囲の大国の圧力のもとで、たびたび民族の解体の危機にさらされた。彼らは、そのような困難な状況の中で、自分たちの歴史をさかのぼり確かめることによって、民族としての統一性を確認し、将来への希望を養っていった。それが、唯一の人格神 [2] に対する信仰となり、やがてさまざまな試練を経て、ユダヤ教と呼ばれる一つの宗教となっていた。

ユダヤ教の聖典である (b)『旧約聖書』によると、紀元前 13 世紀にモーセに率いられて、彼らの一部が移住先のエジプトから再び [1] へと脱出した。その途中、神は彼らを救出するとともに、シナイ山においてモーセを通じて十戒を授け、これを守ることを要求したという。彼らは、これを [2] とイスラエルの民との (c)契約であると受けとめ、神を信じ十戒を中心とする掟に従う限り、神に選ばれた民族として救済と繁栄が約束されると理解した。この教えは、教義だけでなく慣習や道徳にまで及ぶものであり、神への信仰と倫理とを結ぶものであった。

その後 [1] の地において、ダヴィデ王や (d)ソロモン王のもとで、[3] に [2] の神殿が建立され、またイスラエル人の王国は繁栄を迎えるが、神と契約した民としての自覚を失いつつあった。そのような中で、(e)預言者と呼ばれる人々は、当時の社会と宗教のあり方を批判した。しかし、その批判も十分に受け入れられることなく、やがて王国は南北に分裂したのち、ともに滅ぼされ、特に紀元前 6 世紀には、南の [4] 王国の多くの人々が捕虜として連行された。これを (f)バビロン捕囚という。預言者たちは、国を失うことになったのは律法を守らなかったからであるが、神はイスラエル人を許し、[5] を世に送るだろうと人々に告げた。こうして人々は律法を守り、いつの日かイスラエル人に栄光がもたらされることを期待し、[5] を待望しながら苦難を耐え忍んだ。

問1 文章中の空欄 [1] ～ [5] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[1] ⎧ ① ダマスコ ② ハラン
 ⎨ ③ エデン ④ カナン

[2] ⎧ ① レビヤタン ② ケルビム
 ⎨ ③ バアル ④ ヤハウエ

[3] ⎧ ① ナザレ ② サマリア
 ⎨ ③ エルサレム ④ ベツレヘム

[4] ⎧ ① ユダ ② イスラエル
 ⎨ ③ バビロニア ④ アッシリア

- [5]
- | | |
|-------|-------|
| ① 哲学者 | ② 救世主 |
| ③ 預言者 | ④ 祭司 |

問2 文中の下線部(a)に関して、イスラエルの名前の起源となった人物として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[6]

- ① アブラハム ② ヤコブ ③ イサク ④ ヨセフ

問3 文中の下線部(b)に関して、『旧約聖書』についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① 旧約聖書は神の啓示を受けたモーセが著した書物である。
 ② 旧約聖書は基本的にはヘブライ語で書かれている。
 ③ 旧約聖書とはユダヤ教の正典を自己の正典としたキリスト教による名称である。
 ④ 旧約聖書の原典は24巻からなり、律法、預言者、諸書の三部に分かれている。

問4 文中の下線部(c)に関連して、旧約聖書中で最初に神との契約を行ったとされる人物として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① ダヴィデ ② イサク ③ モーセ ④ アブラハム

問5 文中の下線部(d)に関連して、ソロモンの知恵をあらわす、次の旧約聖書「列王記」の文中の空欄[9]に入る文として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

そのころ、遊女が二人王のもとに来て、その前に立った。一人はこう言った。「王様、よろしくお願ひします。わたしはこの人と同じ家に住んでいて、その家で、この人のいるところでお産をしました。三日後に、この人もお産をしました。わたしたちは一緒に家にいて、ほかにだれもいず、わたしたちは二人きりでした。ある晩のこと、この人は寝ているときに赤ん坊に寄りかかったため、この人の赤ん坊が死んでしまいました。そこで夜中に起きて、わたしの眠っている間にわたしの赤ん坊を取って自分のふところに寝かせ、死んだ子をわたしのふところに寝かせたのです。わたしが朝起きて自分の子に乳をふくませようとしたところ、子供は死んでいるではありませんか。その朝子供をよく見ますと、わたしの産んだ子ではありませんでした。」もう一人の女が言った。「いいえ、生きているのがわたしの子で、死んだのがあなたの子です。」さきの女は言った。「いいえ、死んだのはあなたの子で、生きているのがわたしの子です。」二人は王の前で言い争った。王は言った。『生きているのがわたしの子で、死んだのはあなたの子だ』と一人が言え、もう一人は、『いいえ、死んだのはあなたの子で、生きているのがわたしの子だ』と言う。」そして王は、「剣を持って来るように」と命じた。王の前に剣が持って来られると、王は命じた。「[9]」

- ① この剣で二人は戦い、結果として勝った者が子どもを連れて帰れ。
 ② 生きている子を二つに裂き、一人に半分を、もう一人に他の半分を与えよ。
 ③ 子どもの両手を二人の女で引き合い、奪った者が子どもを連れて帰れ。
 ④ 嘘をついている者は正直に言え、さもなければ二人とも切る。

問6 文中の下線部(e)に関して、『旧約聖書』の預言者として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[10]

- ① ガブリエル ② イザヤ ③ エゼキエル ④ エレミヤ

問7 文中の下線部(f)に関して、バビロン捕囚について説明した次の文中の空欄【A】【B】に入る人名の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ [11]

古代イスラエル民族の南王国が新バビロニア王国によって征服された際、多くの住民がバビロンへ強制移住させられた事件をバビロン捕囚という。記元前 597 年、新バビロニアの王【 A 】の攻撃を受けた南王国の王エホヤキンは降伏し、数千人の貴族、聖職者および中産階級の国民とともにバビロンに連行された。その後、南の王国は半独立国の地位にとどまり、王位はゼデキアに継承されたが、彼が反バビロニア派に動かされ、反乱に加担したため、【 A 】はふたたびエルサレムを略奪し、建物を焼き、砦(とりで)を撤去し、住民の大部分を捕囚の身とした(前 586)。逃亡を図ったゼデキアはエリコで捕らえられ、目の前で家族全員が虐殺され、自らは盲人とされ、足械(あしかせ)をかけられてバビロンへ連行されたという(『旧約聖書』列王記)。その後、新バビロニアを滅ぼしたアケメネス朝ペルシアの王【 B 】が前 538 年に発した「民族解放令」によって帰還を許された。

バビロン捕囚はイスラエル人にとって大きな民族的苦難であったが、この間の精神的苦労はかえって民族の一致を強め、信仰を純化する端緒となった。また、それ以前に書かれてきた『旧約聖書』の律法書、歴史書、預言書、詩などが集成された時期としても重要な意義をもっている。バビロンから帰還後、国家建設はならなかったが、再建した神殿を中心としたユダヤ教団が成立し、彼らはユダヤ人とよばれるようになった。

- ① 【A】ヨハネパウロ 2 世 【B】キュロス 2 世
② 【A】ヨハネパウロ 2 世 【B】ネブカドネザル 2 世
③ 【A】キュロス 2 世 【B】ヨハネパウロ 2 世
④ 【A】キュロス 2 世 【B】ネブカドネザル 2 世
⑤ 【A】ネブカドネザル 2 世 【B】キュロス 2 世
⑥ 【A】ネブカドネザル 2 世 【B】ヨハネパウロ 2 世

問8 次の文の出来事が旧約聖書の物語の順番の中で置かれている位置として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ [12]

世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。東の方から移動してきた人々は、シンアルの地に平野を見つけ、そこに住み着いた。彼らは、「れんがを作り、それをよく焼こう」と話し合った。石の代わりにれんがを、しっくい代わりにアスファルトを用いた。彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしましょう」と言った。主は降って来て、人の子らが建てた、塔のあるこの町を見て、言われた。「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし始めたのだ。これでは、彼らが何を企てても、妨げることはできない。我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう。」主は彼らをそこから全地に散らされたので、彼らはこの町の建設をやめた。 こういうわけで、この町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を混乱(バラル)させ、また、主がそこから彼らを全地に散らされたからである

天地創造⇒①⇒失楽園⇒②⇒ノアの箱舟⇒③⇒アブラハムの召命⇒④⇒出エジプト

第2問 次の文章を読み下の問い（問1～問8）に答えよ。（配点 26）

ガリラヤの町 [13] に育ったイエスは、30歳の頃、[14] の洗礼を受けた。イエスの発言と行動は、(a)『新約聖書』の中にさまざまな形で伝えられている。

イエスは「時は満ち、神の国は近づいた」と語り、伝道活動を開始したと伝えられている。神の国とは、現実には繁栄する王国でも、律法を守る人々だけが入ることができる来世の楽園でもない。それは、「[15] の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」というイエスの言葉が示すように、律法の支配によって差別されたり、社会的に虐げられたりしている人々に、神の愛や救いがすでに差し伸べられようとしていることを告げているのである。これは、恵まれない人々にとって、慰めと希望を与える (b)福音であった。

イエスが当時蔑視されていた人たちと食事をともにしているのを、パリサイ派の人たちが非難したとき、イエスは次のように語っている。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、[16] を招くためである」。このようにイエスは、律法を基準として人間の価値を評価し選別する態度を否定し、社会的に差別されたり、忌み嫌われたりする人々とともにあろうとした。

また、十戒は安息日に働くことを禁止していたが、イエスは「【 A 】」と語り、律法を守ることを目的とする律法主義を鋭く批判した。

しかしイエスは、律法を全面的に否定したわけではない。イエスは、律法の中で、どの掟が最も大切かと問われて、次の二つをあげている。第一は「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの [17] である主を愛しなさい」であり、第二は (c)「隣人を自分のように愛しなさい」ということであった。

このように命じる神とは、イエスにとって、愛の神であった。神は人間に対して、(d)無償で無限の愛を与える。したがって、そのような神が与える律法は、その愛に応じて、その人自身の内面から [17] を信じ愛すること、また、どのような人々をも分け隔てなく愛することを求めるのである。

愛についてのこのようなイエスの考え方によれば、神の愛のもとでは人間の間には身分の上下はない。実際にイエス自身も抑圧されていた人々の立場に身を置き、ユダヤ教の (e)律法主義者をはじめとした支配体制を厳しく批判した。そのためイエスは、ローマの役人の手で捕らえられ、総督 [18] に裁かれて十字架の刑に処せられた。

イエスの死に直面した弟子たちは、イエスは神が人間に遣わした (f)メシアであり、死後、神によって復活したと信じるようになった。やがて、このような信仰をともにする人々は、ペテロを中心として教団を形成していった。こうして、キリスト教が成立したのである。

問1 文章中の空欄 [13] ～ [18] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [13] ⎧ ① サマリア ② ベツレヘム
 ⎨ ③ ナザレ ④ エルサレム

- [14] ⎧ ① アリマタヤのヨセフ ② アッシジのフランシスコ
 ⎨ ③ マグダラのマリア ④ バプテスマのヨハネ

- [15] ⎧ ① 心 ② 暮らし
 ⎨ ③ 体 ④ 財産
- [16] ⎧ ① 病人 ② 罪人
 ⎨ ③ 義人 ④ 悪人
- [17] ⎧ ① 福音 ② 聖霊
 ⎨ ③ キリスト ④ 神
- [18] ⎧ ① ヘロデ ② ヨセフ
 ⎨ ③ ピラトゥス ④ アウグストゥス

問2 文中の空欄 [A] に入る文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[19]

- ① 安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない
- ② あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい
- ③ 人は安息日のためにあるもので、安息日が人のためにあるのではない
- ④ あなたを訴えて下着を取ろうとするものには、上着をも取らせなさい

問3 下線部(a)に関して、新約聖書を構成する書名として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[20]

- ① マタイによる福音書 ② 申命記 ③ 使徒言行録 ④ ローマの信徒への手紙

問4 下線部(b)に関して、福音を意味するギリシア語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[21]

- ① ἀποκάλυψις
- ② εὐαγγέλιον
- ③ εὐδαιμονία
- ④ βιβλία

問5 下線部(c)に関して、このような愛に生きる生き方として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[22] (2010年センター本試験より)

- ① 律法を知らない異邦人に対しても、回心をうながし、預言者によって新しくされた律法に生きる喜びを伝道する生き方。
- ② 過去のパリサイ派としての生き方を悔い改め、自ら罪を贖うことで、将来は救われるという希望にあふれた生き方
- ③ 罪人を排除するのではなく、憐れみの心をもって接し、律法的に正しい者へと成長を促す、教父にふさわしい生き方。
- ④ 律法を守ることのできない者であっても、罪を赦す神の愛を信じることによって、互いに相手を大切にする生き方。

問6 下線部(d)に関して、アガペーを説明するイエスのたとえ話として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[23]

- ① 新しいぶどう酒と古い皮袋のたとえ ② 放蕩息子のたとえ
- ③ 実のならないイチジクの木のたとえ ④ 善きサマリア人のたとえ

問7 下線部(e)に関して、サドカイ派についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[24]

- ① 修道院に似た共同生活を行い、あらゆる規律の遵守を義務づけられた
- ② 律法の遵守を重んじる平民の律法学者
- ③ 反ローマ武装闘争に決起した急進派グループ
- ④ 儀式を重んじる保守的な祭司階級

問8 下線部(f)に関して、メシアの意味として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[25]

- ① 救世主 ② 神の子 ③ 油を注がれた者 ④ 王

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 22）

新しく生まれたキリスト教が、異邦人にまで普及することに、最も貢献したのがパウロであった。彼は当初ユダヤ教の〔 26 〕派に属し、キリスト教徒たちを迫害していたが、ある日、キリスト教徒の弾圧に向かう途中で、突然イエスが彼のもとに現れるという神秘的な経験をする。彼はそれを神の啓示と受けとめ、キリスト教へ劇的に回心した。

「人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、〔 27 〕による」ということが、パウロの最も伝えようとしたことである。彼はイエスを信じて、さまざまな地域を旅し、信仰と希望と愛を持って生きることを人々に説き続け、キリスト教の教義の確立と伝道に力を尽くすことになった。キリスト教は、パウロとともに世界宗教への道を歩み始めたのである。

こうしてキリスト教は、当初の厳しい迫害の中を生き続け、しだいに信者を広げ、4世紀末にローマの国教として認められるようになった。またこの間に、イエスの言葉を伝える「福音書」を中心として『新約聖書』がまとめられた。さらに、教父と呼ばれる人々が、新プラトン主義の理論などを用いて、キリスト教徒の信仰すべき教え(教義)を理論的にまとめていった。なかでも「父なる神」と「子なるイエス」と「聖霊」の三つが、〔 28 〕としては同じであるという三位一体の教義は、論争を経ながら、教会の中心的教義として公認されるようになった。このように組織と教義が整えられることによって、キリスト教の正統な教会として、カトリック教会が成立した。

教父の中で後世に最も大きな影響を与えたのは、(a)アウグスティヌスである。彼は青年時代に奔放な生活を送ったが、〔 29 〕主義の影響を受け、さらにパウロの書簡などとの出会いを通じて、信仰の生活に入った。アウグスティヌスは、心の内に目を向けることによってこそ、本当の自分自身に出会い、さらにその最も内奥において、自分の心をも超えた存在である神に出会うことができるという「内なる道」を説いた。また、人間を原罪から救うことも、よき行為を志すことも、神の〔 30 〕によるものであり、そして教会こそがその救いを伝える機関だと主張した。教会は、理想的な「神の国」と、現に存在する「地上の国」との間に立って、現実世界の国家を導かなければならないのである。

中世においてカトリック教会が大きな権威と権力を獲得するようになると、哲学の研究はキリスト教の教説の研究と一体となって行われるようになった。その研究は、おもに教会や修道院に付属する学校(スコラ)で行われたので、(b)スコラ哲学と呼ばれる。

さらに (c)12世紀ルネサンスによって、西洋の思想はその大きな影響を受けた。とりわけ重要な問題となったのは、アリストテレス哲学に代表される理性の立場とキリスト教の信仰との関係である。

トマス＝アキナスは、アリストテレスの哲学を研究しながら、それをキリスト教の信仰を体系化するのに役立てた。トマスによれば、人間は信仰によって神から啓示された真理を受け入れるのであるが、その内容を理解し説明するためには理性を用いる必要がある。彼はこのような考え方を通じて、〔 31 〕をはかった。このような思想によって、トマスはスコラ哲学の完成者と呼ばれる。

14世紀になると、信仰と理性との関係について、トマスらとは異なった主張が行われるようになる。普遍に実在性を認める立場(実在論)に対して、〔 32 〕は、外界に存在する事物はすべて互いに一つひとつの事物(個物)であり、普遍的なものは概念や言葉でしかないという唯名論を展開した。さらに神の存在や性質は信仰によって知られると主張し、信仰と理性、神学と哲学を分離する考え方を示した。

問1 文章中の空欄〔 26 〕～〔 32 〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [26] ⎧ ① サドカイ ② ゼーロータイ
 ⎨ ③ パリサイ ④ エッセネ

- [27] ⎧ ① 信仰 ② 希望
 ⎨ ③ 善行 ④ 愛

- [28] ⎧ ① 実体 ② 表面
 ⎨ ③ 位格 ④ 仮面

- [29] ⎧ ① グノーシス ② ストア
 ⎨ ③ エピクロス ④ 新プラトン

- [30] ⎧ ① 摂理 ② 見えざる手
 ⎨ ③ 恩寵 ④ 秩序

- [31] ⎧ ① 信仰を求める知解 ② 信仰と理性の調和
 ⎨ ③ 哲学と宗教の分離 ④ 不合理なるがゆえの信仰

- [32] ⎧ ① テルトゥリアヌス ② カンタベリーのアンセルムス
 ⎨ ③ ヒエロニムス ④ ウィリアム＝オッカム

問2 下線部(a)に関して、アウグスティヌスの思想の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[33] (2008年センター本試験より)

- ① 我々は自らの原罪を克服しようと努めるべきであり、その努力に応じた神の恩寵によってのみ救済される。
- ② 我々は神の無償の愛によってのみ救済されるのであり、原罪のゆえに自ら善をなす自由を欠いている。
- ③ 我々は神のロゴスにより創造されているため、そのロゴスにしたがうよう努めることによってのみ救済される。
- ④ 我々は神の律法を遵守することによってのみ救済されるが、その律法を破ったならば神の罰を受ける。

問3 下線部(b)に関して、スコラ哲学についての説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[34] (2010年センター本試験より)

- ① ギリシア以来の哲学を用いキリスト教神学の教義を理論的に体型づける。
- ② 存在忘却に陥った形而上学を解体し存在への問いを新たに開始する。
- ③ ギリシア・ローマの古典を学ぶことによって人間の自立性を回復する。
- ④ ただ生きることではなく善く生きるための方法を対話によって学ぶ。

問4 下線部(c) に関して、この出来事についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[35]

- ① アレクサンドリアではギリシア哲学がキリスト教と結びついたクレメンスやオリゲネスの教義神学や、それにさらにオリエント的神秘思想が加わったグノーシス主義神学も生まれた。哲学が宗教化したと言われる新プラトン主義哲学も当地のプロティノスにより大成された。古代末期からコプト時代にかけては五大司教座の一つとしてローマ、コンスタンティノーブル等に次ぐ重要性をキリスト教界に占めた。
- ② カール大帝は、彼がよみがえらせた西欧の帝国のキリスト教化と文化の復興に、強い使命感をもっていた。カールの治世当初の荒廃した知的環境のもとでは、ラテン的・キリスト教的な古典復興の仕事は、かろうじて古典を保存できた修道院出身の学識ある聖職者の手にゆだねられた。宮廷の周辺には、アインハルトのようなフランク人もいたが、イングランドのアルクイン、イタリアのペトルス、スペインのテオドゥルフのように、外国から招かれた学者が多く、この運動の全西欧的な性格を示している。
- ③ シチリア、ヴェネチア、トレドを中心に、ギリシア語やアラビア語の原典、あるいはギリシア語文献のアラビア語訳が盛んにラテン語に翻訳され、東方の高度の文化がはじめて西欧に知られることになった。その中にはプラトン、アリストテレス、プロクロス、アヴィンセナ、アヴェエロス、アル・ガザーリーなどの哲学書、ヒポクラテス、ガレノス、プトレマイオス、ユークリッド、アル・フワーリズミーなどの科学書が含まれている。
- ④ イタリアをはじめとして、ヨーロッパ各地に生起した、大規模な文化的活動の総称。哲学、文献学、キリスト教学、美術、建築、音楽、演劇、文学、言語学、歴史叙述、政治論、科学、技術などそれぞれの文化領域において、顕著な発展が示された。

問5 ラファエロ作「アテネの学堂」に描かれた下の人物の名前として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[36]

- ① エウクレイデス
- ② アヴェロエス
- ③ アヴィケンナ
- ④ アヴェラール



第4問 次の文章を読み、下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 28）

紀元前 1000 年頃、北インドには [37] 制と呼ばれる (a)身分秩序が生まれた。その最上位はバラモンで、順にクシャトリヤ、ヴァイシャ、シュードラとなっていた。バラモン教では、『[38]』と呼ばれる聖典に記載された神々を祀る儀礼が重視されていた。

しかし、やがて [39] に対する深い思索がなされるようになり、すべての生き物は死後、自分の [39] にふさわしい姿に生まれ変わるといふ、輪廻転生の思想が生まれた。生あるものはすべて、生と死を無限に繰り返す。次に自分が何に生まれ変わるのか、人々は不安を感じながら生きていかなければならない。生は喜ばしいものではなく、苦痛に満ちたものとみなされた。

(b)『ウパニシャッド』という哲学書には、この苦しみから逃れるために、解脱(悟り)をする方法が説かれている。『ウパニシャッド』が述べる解脱への道筋は、次のとおりである。宇宙の根源は [40] と呼ばれる。一方、個々人の根源は我と呼ばれる。両者は別のもののように見えるが、実は一体であり、そのことを瞑想によって体験すれば、自己と宇宙とが調和する境地が得られる。

解脱のためには、さまざまな苦行が課せられたが、多くの修行者をひきつけていた。これら修行者の中から、バラモン教を批判して、教団として独立した活動を展開する動きが現れる。例えば、その一人 [41] は、解脱を得るための修行をさらに厳格にするため、苦行を徹底させて、(c)すべての生き物を殺してはならないと説いた。彼の教えは、ジャイナ教として都市住民の間に広がった。田畑を耕作する農民と違って、商業従事者は、動物を殺すことなく生活できたからである。

紀元前 5 世紀頃には、ジャイナ教を含む六つの思想流派が活動していたとされる(六師外道)。仏教も、バラモン教を批判する動きの中からおこった点では、これらと同じ潮流に属していた。

問1 文章中の空欄 [37] ～ [41] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [37] ⎧ ① カースト ② アーリヤ
 ⎨ ③ ヴァルナ ④ ヤジュル

- [38] ⎧ ① ヴェーダ ② スートラ
 ⎨ ③ アビダルマ ④ ヤーナ

- [39] ⎧ ① ブラフマン ② アーリマン
 ⎨ ③ アートマン ④ カルマ

- [40] ⎧ ① ブラフマン ② アーリマン
 ⎨ ③ アートマン ④ カルマ

- [41] ⎧ ① ヴァルダマーナ ② シャーリプトラ
 ⎨ ③ アーナнда ④ マハープラジャーパティ

問2 下線部(a)に関して、ゴータマ・シッダッタが所属していた身分として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[42]

- ① ヴァイシャ ② シュードラ ③ クシャトリヤ ④ バラモン

問3 下線部(b)に関して、ウパニシャッドの意味として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[43]

- ① 知識 ② 輪廻 ③ 奥義 ④ 解脱

問4 下線部(c)に関して、これをあらわす言葉として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[44]

- ① アヒンサー ② サティアグラハ ③ スワラジ ④ スワデシ

問5 バラモン教に由来する神の名として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[45]

- ① 帝釈天 ② 阿修羅 ③ 弁財天 ④ 恵比寿天

問6 ゴータマ・シッダッタについて書かれた次の文の空欄 [46] ～ [50] に入る適切な語を、下の①～⑥のうちからそれぞれ一つ選べ。

釈迦は生後7日に母のマーヤーに死に別れ、以後は亡母の妹すなわち叔母に [46] で育てられた。王子としての教養を積み生活は恵まれていたものの内向しがちであった。当時の風習により16歳で結婚し、のち男子をもうける。しかし富裕と安逸な日常のうちに、青年期を過ぎた釈迦は、人生の根源に潜む苦の問題に思いを深め、それに沈潜するなかで、苦の本質の追究とその解放である解脱を目ざすようになる。

29歳に達し、ついにいっさいを放棄して、城を脱出し出家する。ガンジス川辺に仙人2人を相次いで訪ねて、その禅定を学ぶ。しかしなお意を満たしえず、やがてガヤーの地に赴き、付近の山林にこもって出家者にふさわしい苦行に専念する。その苦行は激烈を極め、極度の断食のために身体は骸骨に似ても、なおそれを休まなかった。苦行は6年間続くが、かえって精神はもうろうとなり、初志から遠ざかってしまうことを自覚して、それを放棄する。山林を出て川で身を浄め、村の少女 [47] から乳粥を受けて体力の回復を待ち、 [48] の菩提樹の下に座って、ひたすら思索にふけた。

途中で悪魔の誘惑などもあったが、釈迦は瞑想に集中し、ついに大いなる悟りが開けて、ブッダすなわち「悟った人(覚者)」となった。その後しばらく悟りの醍醐味に浸り、長いためらいのちに、説法を決意した。その内心の動きは、悪魔や魔女の誘惑や梵天の切なる説法勧請という戯曲的表現で示されている。

[49] で初転法輪を行った後、釈迦は酷熱のインド各地に成道以後の45年間も教を説いて回った。その後半の25年間はいとこにあたるアーナンダが随伴したが、ついに [50] の郊外の2本のサーラ樹の下で入滅する。ときに80歳。入滅後、釈迦は付近の民衆により火葬され、その遺骨(仏舎利)は八か所に祀(まつ)られ、ストゥーパ(塔)が建てられた。

- ① スジャータ ② ブッダガヤ ③ サールナート
④ カピラヴァストゥ ⑤ ラージャグリハ ⑥ クシナガラ

これで問題は終わりです。